

「立地適正化計画」とは？

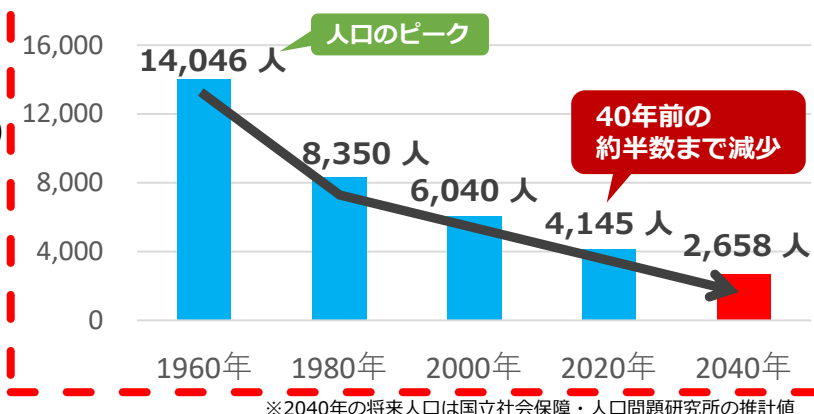
今後も人口減少や少子高齢化が進行することを見据え、防災にも配慮しながら持続可能でコンパクトなまちづくりを行っていくための計画です。

長い時間をかけて緩やかに、医療・福祉・商業施設や住居等の誘導を行い、これに公共交通を加えて、町民生活の利便性を高めるとともに、行政負担の軽減を図りながら、いつまでも美深町で暮らし続けられるようまちづくりを進めるものです。

美深町の人口推移と将来人口について

美深町の人口は、1960（昭和35）年の14,046人をピークに減少を続け、1980（昭和55）年では8,350人、2020（令和2）年では4,145人となり、40年間でおよそ半数まで減少しています。

さらに「国立社会保障・人口問題研究所」の推計では、2040年には2,658人になると予測されており、同時に高齢化も進むことが予想されています。



立地適正化計画策定の効果について

このまま人口減少が進むと…

人口密度が低下し、様々なサービス機能の衰退や生活の利便性が低下

町外への人口流出が加速

公共交通機能が衰退、生活の利便性がさらに低下

さらに市街地は空洞化し、都市の機能が維持できなくなる

計画を策定し、様々な取組を行うと…

こんなことが可能となります！

- 人口密度が維持できる
- 日常生活を支える
- 様々なサービス機能が維持できる
- 公共交通の利便性が維持できる
- まちの中心部やまち全体が活性化する
- 施設等の維持管理コストが低減できる

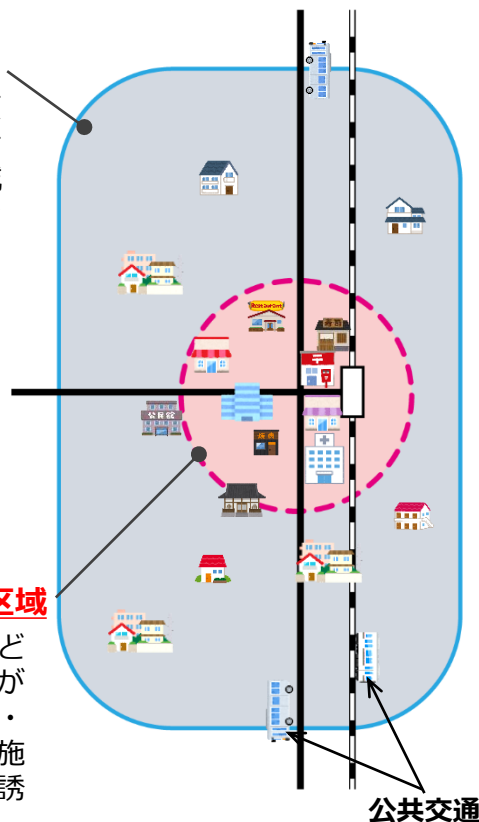
【コンパクトなまちづくりのイメージ図】

居住誘導区域

一定の人口密度を維持し、生活サービスや地域コミュニティを確保しながら、居住を誘導していく区域

都市機能誘導区域

まちの中心部などに立地することが望ましい、医療・福祉・商業等の施設をできるだけ誘導していく区域



※この図はあくまでもイメージです。

※区域が設定されたからといって強制的に移転を迫るものではなく、また、区域外に住めなくなるといったものでもありません。

「持続可能でコンパクトなまちづくり」へ！